

水草研究会第7回全国集会報告

第7回全国集会は1985年8月3日(土)午後1時から、点在する瀬戸の島々や、瀬戸大橋架橋工事が見渡せる香川県坂出市の五色台国民休暇村で開催され、交通不便の地にもかかわらず56名の参加者があり盛会であった。

下記7題の研究発表が五色山荘の大会議室で行われ熱心に討論された。

座長(1~4)高橋道彦、(5~7)別府敏夫

1. 湖沼の水草制御とソウギョの放流量について
桜井 義雄
2. イバラモ属雑話
原田 市太郎
3. ガガブタの観察—おもに形態について
浜島 繁隆
4. アツケシソウこぼれ話
納田 美也
5. 水辺のカヤツリグサⅡ—ハリイ属について
野口 達也
6. フサモ属の異形葉
青木 雅夫
7. 香川県のオニバスの分布(スライド放映)
久米 修(代理 和気俊郎)

会議室の後方には、香川県の主に東部で採集された水生植物の生標本が置かれ、参加者の間にディスカッション

の話題を提供していた。特に狭葉性ヒルムシロ類については関心の的となった。

総会終了後は、五色台の山池であるタンベ池の水生植物を見学した。

懇親会は、原田名誉会長の乾杯に始まり、9時過ぎまで会員の交流が続き、香川の県木であるオリーブの果実の塩蔵、さめき名産の一つ、しょう油豆が色を添えたようである。

8月4日は8時20分から環境庁建設によるビジターセンターで瀬戸内海の生立ちを見学したのち、35名が参加して8時40分、エクスカーションに出発、途中、香川植物の会々員9名が合流して行われた。案内役は、大石泰輔氏が務め、採集にも獅子奮迅であった。

コースは、木沢塩田跡(坂出市王越町)—御坊川(高松市今里町)—川添橋(高松市元山町…春日川)—小村橋(高松市小村町…吉田川)—男井間池・女井間池・五分の一池(木田郡三木町池戸)—久米池(高松市新田町久本)—本村の用水路(高松市新田町本村)—高松駅。

予定を10分遅れ15時10分高松駅到着。欲張った盛り沢山な見学地を計画し、炎天下にもかかわらず無事エクスカーションが終了できたのは、参加者皆様の熱意によ



たものと深く感謝する次第である。最後に、多々、不手際のあったこととお詫び申し上げる。(納田美也 記)

エクスカーションで見られた水草他

木沢塩田跡—アツケシソウ、ホソバナハマアカザ、ノラニンジン、ハママツナ、ハマサジ、ウラギク、イソヤマテンツキ、カワツルモ、ヨシ

御坊川—クロモ、ナガレミズヒキモ(仮称)、ウキクサ、アオウキクサ、コウキクサ、ミジンコウキクサ、オオイシソウ(紅藻、加崎英男先生同定)、

川添橋—オオカナダモ、トチカガミ、ウキクサ、アオウキクサ、ミジンコウキクサ、キシユウスズメノヒエ、チクゴスズメノヒエ、メリケンガヤツリ、アシカキ、ウキヤガラ、クサヨシ、ヒメガマ、ガマ、ヒシ、ヨシ、ツルヨシ

小村橋—クロモ、コカナダモ、エビモ、ナガレミズヒキモ、ヤナギモ、アイノコヒルムシロ、ホザキノフサモ、クワイ、ウキクサ、アオウキクサ

女井間池—ヒシ、ゴハリマツモ、ガマ、ハス、ヨシ、マコモ、ガマ、ウキヤガラ、付近の水溝でオギノツメ、ミゾソバ、カササゲ、アゼナ、スズメノトウガラシ、アオウキクサ、ウキクサ

五分の一池—ガガブタ、アシカキ、ハンゲショウ、エビモ、マツモ、クロモ

久米池—アサザ、ヒシ、クログワイ、カンガレイ、クワイ、ショウブ、ハンゲショウ、ウキシバ

新田町用水路—コカナダモ、ナガレミズヒキモ、セキシヨウモ、ササバモ、エビモ、マツモ、イトモsp., ミズオオバコ、ウキクサ、アオウキクサ

総会報告

○報告事項

1. 会員状況

(1) 会則8条(2)による退会者	33名
(2) 現在の会員数(7月31日現在)	
会費完納	158名(68.1%)
60年度未納	50名(21.6%)
59年度未納	24名(10.3%)

計 232名

2. 昭和59年度会計報告

<収入>

前年度繰越金	80,194
会費	533,000

別刷代	20,900
バックナンバー売上金	19,500
第6回全国集会余剰金	50,500
寄付金	27,500
利息	1,877
その他	1,920

合計 735,391円

<支出>

会報印刷費	566,200
会報発送費	171,120
封筒印刷費	18,000
事務費(文具・通信費)	17,780

合計 773,100円

次年度への繰越金 -37,709円

3. 会報編集状況

昭和59年度は、年4回順調に発行でき、総ページ数88ページとなった。今後とも積極的な投稿を期待する。

○審議事項

1. 会費値上げの是非について

現状どおりの活動を維持してゆくためには、年間70万円以上の経費が必要であるが、会費収入は50数万円しか見込むことができない。このままでは、今後、赤字がどんどんふえてゆくことが必至である。若干の会費値上げをおこなってでも現在のレベルを維持してゆくのか、会費は据えおいて活動を縮小するのか、今、その選択を迫られている。このような問題提起を受けて議論が行なわれた結果、次のことが了承された。

- (1) 61年度より、会費を3000円に値上げする。
- (2) 会報の頁数は、全国集会の講演を集録する9月号以外は、原則として16ページにとどめる。
- (3) 4ページを超える原稿は、超過分実費を著者負担とする。

2. 次年度全国集会開催地

東日本を優先するという事で役員会に一任。

3. その他

来年7月、日本雑草学会主催で水生雑草に関するセミナーが開催される(於倉敷)。水草研究会会員もふるって参加されるよう呼びかけがあった。